

市民アーカイブ多摩の目指すもの

近年、「市民活動資料」という言葉を目にされた方も多いと思われるが、これは「市民社会の形成と成熟に向けて、現在の世代と後に続く世代とが時間・空間を越えた交流を進めるための基盤」（「市民アーカイブ多摩」のサイトの定義から引用）である。それらには、さまざまな団体や個人が発行した会報、通信類やチラシやビラ、ポスター、ウェブ上の文書などが含まれる。それらはミニ・コミュニケーション・メディア（以下、「ミニコミ」と略称）と称されるが、マイノリティや生活者、あるいは種々の問題や課題に遭遇した人々によるメディアとして発信され、日々の暮らしに潜む問題や見落とされがちな情報、見過ごされる人々の思いなどで構成されている、市民の生きた証（あかし）そのものである。ミニコミは、それらを手にするだけで、多くの発見や示唆に心動かされるとともに、読者自身にも参加や意見を呼びかけられる、双方向性の強いメディアでもある。

しかし、こうした市民の記録は、その形状や発行、流通事情ゆえに、これまで図書館や資料館でも保存が図られることは少なく、多くは散逸や減失を免れなかった。収集時期を逃すと、二度と入手できない記録も多い（例えば、多摩地域のある市では、戦後の福祉の歩みを自治体史で記述するため、市内の市民団体や福祉作業所が発行していたミニコミを活用したが、それらのミニコミは、当該市の図書館や公民館には保存されていなかった）。これらを収集・整理・公開に供する民間の施設が、2014年4月12日にオープンした。それが、「市民アーカイブ多摩」である。

「市民アーカイブ多摩」が設立される最初のきっかけは、2002年にさかのぼる。東京都立多摩社会教育会館の「市民活動サービスコーナー」事業廃止に伴い、同コーナーが1970

年代から2000年代初頭にかけて収集してきた、ミニコミなど「段ボール箱500箱」分の資料廃棄の危機に陥った。これらの資料群は立川市の協力を得て市内の小学校の空き教室などに保存されてきたが、それらを散逸させずに資料室を復活させようと思う人々によって、資料を保存・公開するための運動が2006年10月9日に立ち上がった。それが、「市民活動資料・情報センターをつくる会」（略称：資料センターの会）であり、筆者（中村）も入会、2008年から運営委員として活動に本格的に関与することになり、類縁機関への見学会や学習会も行った（その中には、筆者が所属する藤沢市文書館も含まれる）。そして、2009年10月18日の第3回定期総会で「『センター』設立のための募金活動の開始」が決議され、翌2010年に「市民活動資料センター基金」を立ち上げ、資料センター建設のための募金運動や集会などを重ねてきた。

「段ボール箱500箱」の保存に大きな動きがあったのは、2011年1月のことである。このとき、法政大学サステイナビリティ研究機構の新規事業である環境アーカイブズから資料寄託の要請があった。そこで、旧市民活動サービスコーナーで収集された資料500箱（「資料群A」と呼称）と、2002年サービスコーナー廃止以降に他団体と協力して収集されてきた段ボール箱約100箱の資料群（「資料群B」と呼称）を分け、資料群Aの法政大学移管を決議し、2011年12月に移管された（写真1はそれらの一部。現在、資料群は同大学の大原社会問題研究所に移管）。



（写真1）資料群500箱の一部

さらに、資料郡Bについて、2002年以降に収集された資料群Bについて、立川市内のNPO法人「市民活動サポートセンター・アンティ多摩」が試行的に開設していた「ミニコミ広場」を発展的に「市民アーカイブ多摩」として開室することを決議、立川市内の緑地保全NPO法人「グリーンサンクチュアリ悠」の岸中友子代表から、敷地内の建物を使用することについて許可をいただいた。それを受けて、2012年10月28日の総会において、「ミニコミ広場」を「資料センター」として開設する準備を行うことが決議された。そして岸中さんおよび「グリーンサンクチュアリ悠」との覚書を取り交わして、2013年夏にこれまでの募金活動で集まった資金により改修工事を開始し、半開架書庫や閲覧・集会スペースを確保するとともに、ロゴマークも作成、同年12月から試行開館を開始した。そして、2014年4月6日には解散し、新たに運営する会として「ネットワーク・市民アーカイブ」が発足、その6日後の4月12日に、立川市幸町5-96-3に「市民アーカイブ多摩」がオープンした。

「玉川上水」駅（多摩モノレールおよび西武拝島線）を下車してから玉川上水の下流に向かって遊歩道を歩き、日本大学のテニスコートが右に見える地点で遊歩道を右折して直進すると（この間約8分）、オリーブとベンを組み合わせた「市民アーカイブ多摩」のロゴマーク入り緑色の看板の付いた、平屋の建物が出迎える（写真2）。その中に、2002



(写真2) 市民アーカイブ多摩の入口と看板

年以降関連団体から発送されてきたミニコミなどが整理・配架され、公開に供されている。ファイリングされたミニコミは、約1,200タイトルであるが、地域別と分野別のリストがホームページに掲載されており、それをもとに資料へのアクセスが可能である（法政大学に寄託したミニコミも掲載）。

開館日は、毎週水曜日および第2・第4土曜日の午後1時から4時までである。現在、運営委員とボランティアが交代で開館時間につめ、資料整理も行っている。現状では最大週2日、しかも午後3時間のみ開館が限度であるが、これまでご来館された方々の中には、他の団体が発行するミニコミにも関心を持たれ、「なかなかこれないけど、こうしてきちんと保管されていることがすごい」と言われた方や、ご自身が発行しているミニコミ誌を持参された方もあった。

現在、会員数は108名であり、安定的な開館のため更なる会員を募っている。なお、正会員は一口6,000円、賛助会員は一口3,000円である。

市民アーカイブ多摩は、ミニコミの収集・保存・公開を通して、人々の自立と市民自治を高めていくことを目指している。また、収集・保存・公開の方法や技術を模索し、さらに過去・現在・未来におけるミニコミの共有を内実とする、「市民活動資料を共有する思想」を創造していきたいと考えている。多くの心ある方々による物心両面での支援により、開館にこぎつけられたことを心より感謝申し上げるとともに、今後一層のご支援をお願い申し上げる次第である。

参考：『大原社会問題研究所雑誌』No666（特集：市民活動・市民運動と市民活動資料、市民活動資料センター）（法政大学大原社会問題研究所発行、2014年4月）および「市民アーカイブ多摩」のホームページ（<http://homepage3.nifty.com/simin-siryo/index.html>、2015年3月8日最終アクセス）